東洋大學教授　加藤咄堂
東京帝國大學教授
東京高等師範教授　島地大等
東洋大學々長　境野黄洋
三氏序

中村碧潮
松岡良友　共著

好評激甚

最新刊

熱と力と涙とに漣く

本願寺全史

―（四六判最上製美本 全壹冊六百餘頁　正價參圓貳拾錢　送料十八錢）―

一世の豪雄織田信長をして
抜き難し南無の六字城と
嘆ぜしめた所以のもの一に之れ
信仰の力であり民衆の力である

世に親鸞を説き蓮如を語りしものは決して尠からず。されど宗祖以來六百有餘年終始民衆を中心として活動せし本願寺全史は未だ發見せざるべし。本書は第一期草創時代（親鸞より三世覺如）―第二期萎靡時代（四世善如より七世存如）―第三期中興時代（八世蓮如）―第四期戰國時代（九世實如より十一世顯如）―第五期東西分立時代より現代―までの波瀾重疊一起一伏を明鏡に照して詳説評論せし教界稀有の良書なり。文章は平易簡明にして趣味亦津々として盡きざるべし。眞宗五百萬の門徒と二萬有餘の寺院住職は勿論心を人生問題生活問題等に潛むるの士は是非一度本書を繙かざるべからず。

大同館發行圖書目錄

□稻毛詛風氏新著□

文化と自然

（著者自信ある感想評論集）

四六判最上製美本 全壹冊四百頁箱入
正價金貳圓參拾錢　送料十二錢

第貳版

人本主義、文化主義の現代に於て吾々の興味が偏に人生と文化とに傾くのは極めて當然のことである。併しながら人生と文化とは直ちに實在ではない。而も人間の生活は大實在と合一した時にのみ殆めて眞に永遠的普遍的のものとなるではないか。本書は斯くの如き見地に立つ著者が文化と自然とに對する觀察批判と感想とを披瀝したものである。人生を創造と見、自然を神秘と觀する著者の透徹した文化觀自然觀は必ずや眞生活の追求者に對して新緑の朝の如き清新にして力強き印象を與へるであらう。

（内容目次）…第一編人生…創造本位の人生觀…國民思想の將來…民本主義の精神…國民生活の改造と民本主義…政治の精神化・理想化…生活態度としての個人主義…自我の正觀…一人の力…深く考へよ・求むる心と與ふる心…詩を求めよ…勞働を樂しむ心…愛と責任…愛と聰明…第二編藝術…文藝の價値を高めよ…自然主義より人生主義へ…批評の價値…批評家の覊絆…文藝批評の根本義…文藝批評の標準…文壇に對する批判と要求…性美の醉化…第三編自然…神秘の殿堂としての自然…雪の木峙潮…廣田紀行…關西紀行…若草は萌え初めた…夏四題…夕顔の花咲く下に…野鼠呂戯…夏の曙出…新緑…私の好きな初夏の郊外…秋…

大同館發行圖書目錄

□文學士小林一郎先生新著□

第三版

自由の生活

思想界の混亂は實に未曾有てある。吾等は此間に處して如何に吾等の活路を開いて行くべきであるか今は徒に樂觀するを許さぬ又徒に悲觀すべきで無い。之を過去の經過に徵し現在の情勢に照して今後の立場を確と定めなければならぬ著者は此の見地から日本の文明の過去及現在に對して自由なる批評を試みた。現代に處して意義ある生活を爲さんとする人々の一讀を勸める殊に青人の人々と青年の指導の任に在る人々は必ず精讀すべきである。

內容目次

萬事は是からである…誰が責任を負ふのか…國は自分のものである…武士と百姓町人…武士の學ぶべき所…自分の國は何といふ國か…名譽心の犧牲…忠義の觀念、…忠義を誰に盡すのか…倭寇と海外貿易…町人の意氣抱負…自ら重んずるの心…德川氏三百年…事無かれ主義…鎖國の二百年…利用厚生の道…流れぬ水は腐る…町人の氣焔の吐き所…西力東漸の勢…幸運に狎れてはならぬ…尊王攘夷…國を大局に注ぐ者…國家の柱石たる覺悟…少壯者の時代…國體の精華…皮相なる西洋文明觀……近世文明の特色…貴き犧牲…自ら侮れば人之を侮る…日本人は劣等の人種か…科學と信仰……功利主義の隆昌…自由平等論の勃興…自治とは何であるか…世界の眼…百年の後

四六判最上製美本
紙數五百五十頁
正價 貳圓五拾錢
送料金十貳錢

大同館發行圖書目錄

▼現代的解釋に成れる聖日蓮の敎義▲

□日蓮宗大學講師
□『法華』編輯主幹文學士小林一郎先生新著□

日蓮主義講話

四六判最上製美本
全壹册五百七拾頁
正價金 貳圓五拾錢
送料 十八錢

日蓮主義は現時の思想界に勃興せる新勢力なり。本書は從來の宗派を離れたる自由の見地より日蓮上人の事蹟と敎義とを平易の語を以て講述し日本國民信仰の歸着點を指示せるものにして未だ信ぜざる者は之によりて新なる生命を得べく既に信に入れる者は之によりて現今の時勢と宗教との關係を了解し得べし。特に青年の人々に本書の熟讀を勸む

熱狂的歡迎
忽ち五版

（內容目次）

吾等と日蓮上人…時勢の推移…切迫した世間…眞の愛國者…世界大戰爭の後…三種の低い信仰…自力と他力…科學と信仰…日蓮上人以前○現世の爲の信仰○念佛と禪○鎌倉時代概觀…日蓮上人の事蹟○遊學時代○立正安國論○大難四度○半生の回顧○佐渡ケ島○身延の隱棲○入滅と其の後…日蓮上人の遺風……信仰的生活…日蓮主義の將來…五綱のこと…近世文明と日本國…骨髓と信仰…一念三千…妙法蓮華經…本佛について…現世安穩…（以上）

東京市神田區表神保町七
大同館發行

大同館發行圖書目錄

新刊 熱と力と涙とに撞く 本願寺全史

序　東洋大學教授 加藤咄堂氏
　　東京帝國大學教授
　　東京高等師範教授 島地大等氏
文　東洋大學長 境野黃洋氏

中村碧潮
松岡良友 共著

東京神田 大同館發行

—（四六判最上美本全壹冊六百餘頁 金參圓貳拾錢 送料金十八錢）—

終始民衆を中心とせる宗教 一世の豪雄織田信長をして「拔き難し南無の六字城」を嘆ぜし本願寺の破瀾重疊は本書之れを叙述す

世に親鸞を說き蓮如を語りしものは決して尠からず。されど宗祖以來六百有餘年に亘り終始民衆を中心として活動せし本願寺の盛衰興亡の眞相を組織的に大成せし本願寺全史は未だ發見せず。本書は第一期草創時代親鸞より三世覺如—第二期萎靡時代四世善如より七世存如—第三期中興時代蓮如—第四期戰國時代實如より十一世顯如—第五期東西分立時代より現代—までの破瀾重疊一起一伏を明鏡に照して詳說評論せし教界稀有の良書なり文章は平易簡明にして趣味津々として盡きざるべし。眞宗五百萬の門徒と二萬有餘の寺院住職は勿論心を人生問題、生活問題等に潜むるの士は是非本書を繙かざるべからず。

群馬縣立師範學校教諭 齋藤始雄氏新著　四六判洋裝美本全壹册 正價金壹圓 送料金拾貳錢

三版 圖畫教育上の四大改造論

（自由畫教育論と實際 金壹圓 送料四錢 姉妹篇出づ）

自由畫の奮起によつて目醒めた圖畫教育界には續々と改造の鐵槌が下つてゐる。本書は著者獨唯の慧眼と筆致とによつて自由畫の基調たる斯界の四大改造を論述し詳細親切に建設した愛書である。四大改造とは何か？曰く自由畫論か、鑑賞教育論かはた又美術史教育論か？否々然らず。より一層根本的なる重大問題があるのだ。吁!!!實に國家のため眞劍なる實際教育に從事するの諸君よ。只本書を備へて解決を見られんことを。

東京豐島師範學校教諭 栗原寅次郎著　◇◇菊判最上裝七百五拾頁 金五圓八拾錢 送料金十二錢

再版 教材研究 改造世界地理精說

世界の大勢に通じ列國の形勢を明かにするも一に地理學の任務なり

外國地理教授の目的は世界を對象として自國の地位を明かにし世界的眼識の上に覺醒せる國民的自覺を喚起し之によりて眞に著實なる國民的活動を奮起せしむるにあり。本書は材料選擇に當りて特に我國との關係的方面を重視し世界の大勢に通ずると共に直ちに彼我刻下の形勢を理解せしめ同胞發展の實狀を詳かにして專ら今後の國民として國家的生活を營むに十分なる資料を集むるに努めたり。內容は教授の要旨教具の準備教材の解說參考附說挿畫の說明教授上の注意の大項に分ち殊に教材の解說と參考附說とは自然人文の兩方面の關係を精査して充分に具體化し兒童の求智心を滿足せしむべく以て取扱者の便宜に供せり要するに外國地理參考書としては現今第一と宣言す

東京市神田 大同館發行 表神保町七

◇福田正夫・井上康文氏共著◇

忽七版 童謠・民謠・詩の作り方

袖珍最上製美本全壹册 金壹圓貳拾錢 送料金十二錢

この書は單なるつくり方ではない。著者が詩壇に於ける永い間の體驗によつて生まれた實際的良書である。北原白秋・西條八十・白鳥省吾・野口雨情諸氏の評論を引用して童謠のつくり方を説明し民謠抒情小曲に至るまで詳細をつくし殊に詩に於ては福田氏が博く深く日本の詩壇全體に亘つて作例をあげて説明す。三木露風・北原白秋・室生犀星・富田碎花・百田宗治諸氏の作の解剖的説明等恰も一大詩篇を讀むが如きである。しかもやさしい親切な詩のつくり方の絶好書である。

福田正夫・井上康文共著 ●童謠・民謠・詩・傑作選集 全 正價壹圓五十錢 送料十二錢

奈良女子高等師範學校訓導 河野伊三郎著 ●兒童童謠選集 銀の笛 全 正價壹圓五拾錢 送料十二錢

黑川延平著 ●童謠 こんこん小雪 全 正價壹圓五拾錢 送料十二錢

岡山女子師範學校訓導 奥山橋太郎編著 ●全國兒童傑作童謠一千選 全 正價壹圓八十錢 送料十二錢

東京市神田區表神保町七 大同館發行 振替貯金口座東京八七貳番

大同館發行圖書目錄

早稻田大學講師 本間久雄氏新著 —(第三版)—

現代の思潮及文學

—(四六判最上製美本 全壹册四百餘頁 正價金貳圓參拾錢 送料金十二錢)—

現代の民衆生活の立場から解説批評せし文化問題二十講出づ

吾々の生活をよりよくし、より豐富にするには如何にすべきか——。かういふ實生活的要求を根柢として多種多樣な混沌として歸趨するところなき近代並に現代の思潮及文學中より最も重要なる二十種の問題を囚へてそれを檢校し解説し批評し講述したのが本書である。而も著者は飽くまでも謙虚な心と穩健平明な文章とを以してゐるから新生活の要求者にはもとより一般の人々にも充分興味ある暗示と啓發とを與へるであらう。

内容目次

第一章 社會改造運動と當來の文藝……第二章 民衆藝術の意義及價値……第三章 ウイリアム・モオリスの民衆藝術論……第四章 德川時代に於ける民衆藝術の勃興……第五章 解法の詩人……第六章 人生派の批評と藝術派の批評……第七章 藝術の社會的價値……第八章 ボサンケ氏の美學……第九章 グライブ・ベル氏の戰爭と藝術……第十章 國家主義と世界主義……第十一章 二つの愛國心……第十二章 現代とジャーナリズムの意義……第十三章 二種の平和論……第十四章 性的道德の新傾向……第十五章 現代婦人と世界的不安……以下略す

東京帝國大學文科大學助教授　文學博士　宇野哲人先生新著

支那哲學史講話

拾六版

本書は上古より清朝に至る迄の支那思想の大要を編述せるものにして先秦時代より宋明の性理學に就いては勿論、殊に清朝に於ける學術思想の變遷がいかに暗々裏に其滅亡を招きて共和政體の建設をなすに至らしめたるか、支那新人の思想は如何に變遷しつゝあるか等は著者が最も意をそゝぎたる所とす。其他困難なる哲學上の問題を極めて平易に簡明に、苟くも文字ありて且つ幾分の素養あらば何人も容易に了解し得る如く説明したる等、要するに凡そ支那哲學の要領は此書に盡きたりと云ふも敢て過言にあらざるべし。

▲菊判上製美本全壹冊　正價金貳圓五拾錢　郵税金十八錢▼

發行所　東京市神田區表神保町六番地　振替貯金口座東京八七貳番　大同館

大同館發行圖書目録

□東京帝國大學文學部教授　東京高等師範學校教授　文學博士宇野哲人氏新著

支那哲學の研究

四六判最上製美本　全壹冊五百廿頁　正價金貳圓五拾錢　送料十二錢

好評四版

支那哲學史講話の姉妹篇　本書は上は三代より下は近世に至り或は一代の思想を概論し或は特殊の問題を細叙し支那哲學に關する博士獨特の研究は殆んど此書に網羅せらる。講話を讀んで略々大意に通ずる者は更に此書に就て斯學の堂奥に參せよ。

【內容目次】支那哲學概觀…先秦思想概觀…洪範を論ず…孔子の三大事業と一貫の道…教育家としての孔夫子…孔子の宗教觀を論じて理想的聖人觀に及ぶ…曾子の學說…孟子の良心論に就いて…孟子の教育說…孟子の君臣論に就いて…孟子の自由平等觀…儒教の目的を論ず…四維に就て…道教の攝生法に就て…漢代思想の傾向…秦皇漢武の思想界に及ぼせる影響…太史公の當代思想家評論に就て…陸賈の學…王充の學…竹林の七賢に就て…文中子の哲學…唐李翺の哲學を論ず…程門の四先生…誠敬の說…事上磨鍊に就て…支那の公羊學派に就て…支那に於ける儒教の民主化…支那文化の考察と其特質…

文學博士　宇野哲人著

二程子の哲學

全壹冊　金貳圓　送料十二錢

著者が多年研究の結晶にして苦心の著述目下印刷中

東京帝國大學文科助教授
東京高等師範學校教授
宇野哲人先生新著

最新版

改訂支那文明記

（四六判最上製美本全壹冊箱入四百卅頁
寫眞版四拾個入極彩色石版畫壹葉地圖入正價貳圓八拾錢送料金十八錢）

好評六版

史學雜誌評……本書は著者が先に文部省の命で歷遊したる所に據り支那の珍奇なる風俗習慣を描いて精細を極む山東の聖蹟歷代の帝都たりし長安洛陽及武漢南京鎭江蘇州杭州等の名所舊蹟は勿論都市高山大河をも緻密なる觀察を以て流麗なる筆致を揮ふ。日本人は多く支那の歷史を知り地名を知り亦支那の詩文に通ぜり此の多少の智識を有して本書に對すれば與味津々として湧くが如く少しにても十八史略を知り唐詩選を誦んずるものは讀み去り讀み來りて卷の盡くるを覺えない。尚卷末には支那の社會事緣家族制度國民性論あり內容充實殆んど一の閑文字なく蓋し近來稀に見るの好著なり。

時事新報評……著者は漢學の造詣深い人である其上叙事頗る穩健でキザな文飾を事とせず廣い深い智識を土臺として極めて自由に書かれてあるので世間普通の支那に關する出版物の如く讀むのに不安心を覺えさせず一々成る程と讀者を首肯させ後まで印象を遺すのは恐らく本書の特色であると思ふ。

大同館發行圖書目錄

◇橘惠勝氏著◇
—（印度佛教思想史の著者）—

最新刊

支那佛教思想史

—（菊判最上製美本全壹冊七百餘頁箱入正價金四圓八拾錢送料十二錢）—

著者が多年苦心研究の大著出現

本書は支那佛教の發達を史的に跡づけたるものである。支那佛教は支那人の理解したる佛教にして支那の民族性に基礎づけられたるものである。支那佛教を移植して發達したる我邦の佛教を研究せんとするには先づ支那佛教の一般傾向と特色とを觀察して我邦の佛教と比較する準備をせなければならぬ。本書は支那思想の全體を批判的に取扱ひたる科學的研究の結果であるから**廣義に支那思想史**として見ることが出來る
—（著者識）—

好評三版

日蓮宗大學講師
小林一郎 新著

日蓮主義概論

四六判最上美本箱入
正價金貳圓八拾錢
送料十八錢

日蓮主義は現代の人の宗教的要求に應ずべき最も進歩せる教義なり。國運の發展も個人の安心も此の教義に基づきて初めて可能なり。本書は著者が囚はれざる自由の見地より日蓮聖人の眞精神を發揮せんが爲に特に執筆せるものにして先づ聖經の梗概を擧げ次に聖人の教義の精髓を語り現代思想との交渉近世科學との關係を論じ眞面目に其所信を告白せるものなり思想問題に注意せる人は必ず一本を手にせざるべからず。

◇京都帝國大學文學部教授文學博士　三浦周行　序
◇京都帝國大學文學部助教授文學士　本庄榮次郎　文
坂上信夫新著

新刊

土地爭奪史論

土を負うて土に反り行く者の土の上に畫ける生活の歴史である。國史三千年の推移を辿つて吾等の祖先が如何なる生活の姿を其上に遺したであらうか。土地制度の歴史を説く間に、人間性の歸趨を靜觀して其姿を凝視しつゝ、「自分の腕に火をつけてその燃ゆる腕を捧げて叫ぶに非れば吾世の闇は霽れないであらう」といふ結論に導いて行く。深い思索と豊かな情操と燃ゆるが如き火の文字を此一卷の處女作に收めて著者は之を江湖の有識者に捧げ其示教を俟つといふのである。

四六版最上製 美本全壹冊
正價金貳圓
送料十八錢

◇新井白石氏遺著◇

五版

讀史餘論

—(國史研究者唯一の參考書)—

白石の讀史餘論の價値は今更論ずるの要なし本書は主として白石の外孫藤清盈の謄寫本に據り其他諸種の異本を參照して增補せるものなれば從來世に現れたるものゝ中で最も信頼するに足るべし。そして原本の評語註語のほか新に校訂者が補語を附し以て異説を擧げ且つ註釋を施して研究者の便を計れる勞は多とすべし且つ一々讀み假名を附し卷末に索引を添へたり。

—(內外敎育評論評)—

四六版最上製 美本全壹冊
正價金貳圓
送料十八錢

東京市神田區表神保町七　大同館發行　振替貯金口座東京八七貳番

東京帝國大學文學部助教授文學士　植松　安著

—(類書中の白眉)—

七版

古事記新釋

著者はこの古事記を説くに當つて神代の卷に最も力を注いだ事を一言して置く索引については單語の解説を見出し得るのみならず古事記本文の事項を探り得るから目錄の代用となる——●難解なる古文を最も平易なる假名交り文に書下し振假名を附し詳細なる語義と其索引を添ふ。著者が國民心理を基礎として神代と上古との風俗人情に下したる評論的文章は各段章に顯はれて大和民族發展の由來を明にし國民歸嚮の中心を說く是れ本書の特長なり。今や大戰後世界思想の急激なる變動は將に我國民思想に及ばんとす世界の日本東洋の日本我等の日本これをこの書に得よ。

四六判最上製美本
全一册五百餘頁
正價貳圓五拾錢
送料十八錢

東京帝國大學文學部助教授　文學士　植松安新著

再版

註釋 假名の日本書紀

(四六判最上製美本全貳册 紙數壹千參百餘頁箱入)

日本書紀の一體に假名日本書紀といふものゝ存する事は從來一部の學者に知られて居たが未だ普く其存在を知る人が尠い。本書は著者が出來るだけの手を盡して調べ得た廿餘種の異本を參照して著述したものである。內容は本文を漢字交りに書下し漢字に振假名を附し假名に漢字を當て一段毎に簡明なる註解を加へ索引として辨ずべき詳細なる目錄を添ふ。我國體の淵源を知り國民性の本質を明かにせる正確なる國史を最も平易に讀み得る書である。學者政治家教育家神職を初め其他何人も是非一讀すべき書である。

(上卷)金參圓五拾錢
(下卷)金參圓八拾錢
送料各廿四錢

發兌　東京市神田區表神保町七　大同館書店

◇文學博士波多野精一序
早稻田大學教授內ヶ崎作三郎序

八版

野村隈畔著

ベルグソンと現代思潮

（四六判最上製美本 五百餘頁箱入）金貳圓五拾錢（送料金十八錢）

本書はベルグソンと現代思潮との關係を說いて極めて詳密である即ち一巻の現代思想評論と見ることが出來る。內容はベルクソンの思想を中心として現代の哲學及生活の梗概を述べたものであるだけに獨りベルクソン哲學の特色と價値とを學び得るのみならず弘く哲學的思想を解する上に於ても亦尠なからざる價値がある文章は一度之を手にすれば知らず識らずの間に讀了せしむる魔力ある文體に依つたので感興殊に深い。近來絕無の良書として江湖に一讀をすゝめる——（六合雜誌評）——

◇松山高等學校教授　三並良譯著

七版

オイケン 人生の意義と價値

（菊判最上製美本全壹册）金貳圓五拾錢（送料金十八錢）

舊世界觀は倒たりと雖も新世界觀は未だ確立せず、思想界は紛亂し人間はその歸趣に迷はんとす。是れ實に現代の煩悶にして精神界一切の病源なり。オイケン博士が獨特の見地より此大問題の解決を試みたるものを本書とす。由來博士の所說は難解なりとの評ありと雖も本書の如きは決して然らず。博士も亦常に本書を最も平易の叙述と稱せり。そして博士と親交ある譯者が最新第五版によれる譯筆も亦た平明流暢なり。オイケン哲學の眞髓を知り人生問題を解かんとする者は之を繙かざるを得ず。…………

東京神田表神保町七
大同館發行

早稻田大學文學士　原田實氏新譯◙

七版

エレンケイ女史原著 兒童の世紀

四六判全壹册 最上製美本　金貳圓五拾錢（送料金十二錢）

エレンケイ女史の名は今や全く世界的である。女史の至純なる戀愛を高調し高尚眞面目なる結婚を主張するは何の故ぞ！其間に生るゝ兒童を眞の人格者たらしめんが爲である兒童を眞の人格者たらしむるは人類を眞の人類たらしめて幸福と平和と悅びとを此世に齎し生命に輝く世界を創造せんが爲めであるそして其第一の又最大の準備として女史の主張するものこそ所謂『兒童の世紀』である。內容は兒童中心の思潮を徹底的に說けるものにして佛のルッソーの『エミール』に次ぐ大名著と稱せられ啻に敎育社會のみならず一般の歐米人に甚深の印象を與へ今日の敎育を導く一の光明となつて居る。譯者は夙に女史の偉大なる思想と人格とに敬服し多年其著作に親炙するもの其敬仰の熱情遂に玆に女史が代表的著作の全譯となる或は淚に濡れ或は力に輝く其の原文を移植し得て餘す所なし我が思想界敎育界婦人界は本書を得て一の至寶を加へたりと謂つべし。

早稻田大學講師　本間久雄氏新著◙

四六判上製 美本全壹册　正價金貳圓（送料金十二錢）

三版

エレンケイ思想眞髓

エレンケイ女史は最も熱烈に戀愛を高調し戀愛中心の結婚を主張し同時に戀愛のない結婚生活に向ふて最も大膽なる自由離婚を主張した人である。女史は性に對して最も大膽なる舊道德の破壞者であり最も熱烈なる新道德の建設者である而してこのエレンケイ女史の思想と人物とを最も平明に最も簡潔に最も味ひ深く書いたものは本書である

東京市神田區表神保町七
大同館發行

◇小林一郎氏新著◇

新刊

勝鬘經通解

―(佛教を知るべき手引草)―

眞の佛教は所謂佛教徒の佛教ではない。活きた世間で人類の生活に大なる光明を與ふるものが眞の佛教である。勝鬘は妙齢の一婦人であるが佛教の眞髓を得て其の夫を初め周圍の人を盡く感化し釋尊は深く之を嘆賞せられて、阿難等の人々に之を普く世に宣傳すべきことを命ぜられた。眞の佛教を知らんとする者は勝鬘經を讀まねばならぬ。聖德太子が殊に力を用ひて此經を講ぜられたのも道理である。著者は從來の傳統を離れた自由な立場から此經を解釋した。特に餘論二十章には大なる苦心を注いだ。是れなら如何なる人にも分る筈だと信じて居る。意義ある生活を求むる人々の一讀を望む。

四六判最上製本 全壹册四百餘頁

正價 貳圓參拾錢 送料十二錢

◇早稻田大學教授 內ケ崎作三郞序 工藤直太郞氏著◇

新刊

人間文化の出發

現代の社會的不安と精神的悲亂は十九世紀以來「物」を以て「人間」を支配せんとした唯物文明の所産だ。現代生活の傷しき不信と苦悶とを救ふには「人間」を「物」より解放して、人間愛に生きる社會を創造せねばならない。個々人の生活を貫いて最高の統一目的に人間愛を體驗して奉仕することは 人間文化唯物の桎梏より靈愛の世界に人間を解放し新らしき人間文化を創造せんとするところに現代人の崇高なる宗敎的信念を看る。

四六判最上製本 全壹册四百餘頁

正價 金貳圓 送料十二錢

發兌 東京市神田區神保町七 大同館書店

大同館發行圖書目錄

白石實三氏新著 ■

―(數年の努力に成れる熱烈眞摯の研究)―

【新味獨特の藝術品】

第三版

武藏野巡禮

萩。薄。蟲聲。曠野。月光、四季を通じて武藏野は絵の如く詩の如し、武藏野を知り武藏野を愛し武藏野を慈しむに於て著者は現代第一人者である。本書は著者が巡禮探勝實に數年悉さに武藏野の自然を見人を見、兼て其處に生起する土地河川都市田園等の各社會問題を考察せる熱烈眞摯なる研究書也。文や清新豐麗一種獨特の新藝術品を完成し在來の紀行文の舊型を打破して別に史實に一新生面を拓けるもの新藝術品愛好者は勿論武藏野及郊外愛慕者は必ず本書を繙いて此の美玉の如き抒情詩を愛誦せられよ

四六判最上製美本

正價 金貳圓五拾錢 郵稅金八錢

内容目次の一班

武藏野巡禮……薄の武藏野……淀橋ガスタンク……奥澤の佛像……落葉林の美……癩病院……木下川藥師……東武藏野の晉見……曠野の望樓……狹山の丘の旅……高麗王の祠……西武藏野……鎌倉街道……多摩川の渡頭……武藏野の花と新綠……近郊の散策……武藏野の夜をゆく……故國の山水……高原の異國人街……栗橋の水樓……關東平野橫斷……國分寺の舍督……北武藏野の町々……外數十項……

大同館發行圖書目録

□□□早稻田大學教授內ケ崎作三郎序
早稻田大學講師吉田絃二郎著□□□

タゴールの哲學と文藝

四六判最上製美本全壹冊 紙數五百卌頁 繪入
貳圓五拾錢 郵税十二錢

好評激甚忽ち七版

オイケンベルグソンの西洋哲學に對して倚ほ慊らざる所を覺ゆるの士は必ずや我印度の大思想家大詩人タゴールに來らざるべからず。彼の思想は印度思想の絶頂に達し彼の敬虔な生活は聖フランシスの如く彼の純眞な文藝の杯は處女的な優しみと絲幻爛漫の露りに滿つ。本書は彼れの哲學・文藝・詩の殆んど全體を網羅し彼を批評し紹介せんとするもの書中納むる所「生の實現」・「園丁」・「新月」・「チトラ」・「郵便局」・「暗室の王」・「ギタンヂャリ」の主なる詩及殆んど全譯に等しき劇の梗概をも收め且つタゴールの評傳及彼の實生活をも掲げたればタゴール研究者の一權威たるを失はず我が現代人を以て任ずるの士は一日も速に外人をして『今後はタゴールの時代なり』とまで驚嘆せしめし彼の全豹とも稱すべき本書を繙かざるべからず。

―(タゴール紹介書中の權威・識者の一讀を希ふ)―

東京神田表神保町七
大同館發行

著者の尤も自信ある新創作文集

早稻田大學講師 吉田絃二郎氏新著

生命の微光

四六判最上製美本全壹冊總數五百頁
正價金貳圓
郵税金八錢

□第參拾版□

『力は孤獨から生れる!』この人生の見方は非常に淋しい。けれども涙ぐまれるほど懷しい生活の力を私に與へた。兄弟を捨て友を捨てあらゆる人々を捨てゝ我れたゞ一人、人生の悠久な寂寞と運命の廣野に孤獨の影を見出した時私だちの哲人生活の第一歩が始まるのではあるまいか。光りなき絶望の底から光りが生れ愛なき嫌人者の臆病な心の底から溫かい人間愛が生れるのではあるまいか。私は此心弱い生活者の收穫の中から創作五篇と卅餘篇の感想を纏めることにした。暗の底に低徊せる孤獨者のいのちの微光を求むるかすかな祈りの聲として(著者)

(內容目次)
されど生くべし
秋一人
蜥蜴
憎
小梅の母
謀叛人の死

孤獨者の心……罪人の淚……豚木島……旅から旅へ……淡紅のチウルフプ……孤島の春に……やなぎの芽生……夜の汽車……馬關海峽で……或る朝……大學正門前……寒い日であつた……この秋……八丈島に行つた女……武藏野の秋……母の愛……秋雨の日……三十の彼……晴と悲哀とから……ロシヤへ行かんとする青年に……曇り日……大地は呻けり……

東京市神田表神保町七 大同館發行

著者の尤も自信ある感想評論集

■早稲田大學講師 吉田絃二郎氏新著■

生の悲劇

■第十二版■

四六判最上製 全壹册
壹圓八拾錢
郵 税十二錢

過去を知らず、未來を知らず、たゞ現實の靈と現實の肉とにのみ彼れの生命の凡べてを燃燒せしむることを允されたる者にとりてはそれが暗であらうと悲哀であらうとたゞ現實を貪り、現實を懷しみ現實を慈しむの心の他には何の希望もあり得ない。人間に與へられた運命が暗い淋しいものであるとしても自分はそれを呪はない。それが自分の生に對して與へられたる唯一のものであることを想ふ時に私は一層その不具なる人類の運命を愁はずには居られない ――(著者の感想より)――

悲哀を中心として廻れる生活の尊さを最も深刻にうたつた詩歌である。暗黑の中にある寂しき悲みの讃嘆である。愛と歡喜性とに富んだ作者の優しい心のひびきである。散文的な蕪雜な詩歌作者の詩よりも斯うした散文の中に却つて美しい本當の詩を發見することを私はどんなに嬉しく感じたらう。涙ぐましい喜びを以て私は此の書を江湖の若き人々に奬めたい。――(新日本評)――

東京市神田 大同館發行 表神保町七

大同館發行圖書目錄

□□早稲田大學講師 吉田絃二郎新著□□

好評 拾版

感想評論 心より心へ

四六判最上製美本
全壹册紙數五百頁
正價金壹圓八拾錢
郵税十二錢

『生とは？ 死とは？』恐らく私たちは現在に生きつゝありといふ悲しき有難き尊い意識の他に何ものをも見出す事を得ないかも知れない。けれども私は今日自分の生きてゐる事の周圍の幾人かの可憐な人々にとりて慰籍であり、力であることを考へただけでも私の生活が無意義でないことを思ふ。たとへはつきりとした哲學は摑み得ないとしても私はそれだけの意味でも生きてゐなければならないと思ふ。永劫の時を通じて この一刹那のみ相凭り相扶け合ふ事のできる、また感じ合ふ事のできる、人間の魂と人間の魂との觸れ合ひを除いてどこに生活があらう。(著者の感想より)

内容目次一班

アーサア・シモンス……心靈のそよぎ……森の葉……初秋の光り……藝術家と新の心……秋の町より……下町住まひ……強く生きんがために……心の弱い青年……生活の底から……小糠雨の日……旅空から……心靈の扉を……秋の感謝……老乞食……人が人をさばく……迷ひ子……黄落葉の詩……秋は過ぎ行く……死の歩みが……何も望まない日……夜道を歩いてゐる日……黄色な壁に……兄弟の詩……上野の森のあたりを……父……秋の朝……或る男……或る夜……觀覽さるべき踊人……木槿の家……千年川のほとり……黄昏の空に……五月雨の日……靄……落日を見る時……櫻花……夢の墓場……銀の盃……シネラリヤ……五月の夜……柳……夜と宵空……旅人は北より……カフェの窓……雨の音は悲し……寒き朝……冬の詩……ウラジオ更紗……Tの墓……病みあがり……植木屋の死……星は飛ぶ……森を歩めば……十四の夏……世界は疲れた……光りは過去の……故郷の人……人生は嚴肅なり……弱き人トルストイ……人間的などストエフスキイ……メレジユコウスキイと人間神……近代人の民衆藝……藝術短論……藝術の內容……超人論……種子は地に播かれた……藝術の摘要……

◇海軍造船大監 櫻井省三先生校閲 文學士 鈴木周作氏譯

ペルリ提督 日本遠征記

四六判最上製美本全壹册 金貳圓 送料金十二錢

（大阪每日新聞評）—日本開國の由來と其の當時の社會事情とを知るに最も貴重なる史料の一に數ふべきペルリの日本遠征記を史實と興味とを旨として之に關する記事を平易なる口語體の文章を以て譯述せるものにして書中米艦來航の事情兩國委員折衝の狀況等は具に外交の委曲を述べ或は風俗を述じ或は人情を品し其實相を紹介せる所はさながら五十年前の我が國の光景を寫映せる活動寫眞でも目睹たる如き感あらしむ。—（東京日々新聞評）—所謂黑船騷動の一面は紙上に躍如たり。當時米國人が日本を如何に觀察したるかを知るだけにても此の書の價値は十分なるにペルリの觀察眼は頗る奇警に富み詳記し論議ず一度繙けば卷を措く能はざる近來の好著なり。—（東京朝日新聞評）—修交通商條約談判の經過が寫生風の記事文で恰も眼の前に見る如く精細に敍述してあるので史料としても貴重なものだがそれよりも趣味饒かなる讀物として手を措くに忍びぬ感がある。

稀代の珍書出づ
縮刷第五版出來

◇鈴木善太郎氏新著◇

小說 暗示

四六版最上製美本五百頁 金貳圓五拾錢 送料金十二錢

（三田文學批評）……特異なる材料を捉へて以て人生の頂點を描けるもの乃ち氏が藝術獨特の境地にしてこれ詩人にして同時に科學の奉仕者たる氏が常によくその試に成功を克ち得たる所以なり。本書はその傑作約二十編の小說を輯めたるものにして代表的選集を以て目すべきものなり。嚴なる科學の上に培はれたる想像が如何に怪しく美しく花咲けるか讀む者をして強く魅し去るを覺えしむ。文壇の珍重すべき收穫として敢て文藝愛好の人士に一本をすゝむ。……との大好評を博しつゝある。

（著者曰く）わたくしは生涯の殿堂を築く爲めの一枚の瓦として本書を出版し未知の讀者に尊敬と熱愛との中にこれを贈るのである。人生の旅路への新しい出發としてたとへ其效果が價値のないものであつたとしてもそれはわたくしに取て希望や光榮や法悅を感ずべき人生の夜明であつた。生涯の記錄の中の最も感謝すべき記念塔である。

内容目次

▼人生の扉をあけて
▼ある掬模の手紙
▼金時計と銀時計
▼支那皿の怪
▼暗示
▼彼の一兵卒
▼切支丹
▼祭日の出來事
▼婦人傍聽席
▼ヒステリーの話
▼鰤中毒の發見者
▼通信員モーリス
▼川の祈り
▼忘却
▼二百八十九
▼喇嘛副平の客

□東京帝國大學文科助敎授
東京高等師範學校敎授文學博士　宇野哲人先生新著□

四書講義　大學

四版

大學は儒敎の目的を最も善く組織的に叙述せるものなりとは著者の創唱する所、此書は如上の見解により て平易明晰に講述せるものにして冠するに大學要旨を以てし附するに索引及之と密接の關係ある幾多有益 の研究を以てす。苟くも儒敎の何物たるかを知らんと欲せば必ず此書を繙いて著者の圓熟せる講話を聞か ざるべからず。

菊判最上製美本
全壹册參百五拾頁
正價金貳圓
郵稅金十八錢

□東京帝國大學文科助敎授
東京高等師範學校敎授文學博士　宇野哲人先生新著□

四書講義　中庸

五版

儒敎の目的は大學に備はり、儒敎の根本義は中庸に明かである。かくて學庸の二書は經となり緯 となり。互に相待つて儒敎の眞相を傳ふ。著者は如上の見解を以て先に大學講義を著はし今亦中 庸講義を著す。大學に由て既に儒敎の目的を明かにせる大方の士は請ふ更に中庸に就いて儒敎哲 理の眞面目を了せよ。尙附錄數篇は皆直接間接に中庸の意義を明かにするものである。

菊判最上製美本
全壹册壹百八拾頁
正價貳圓五拾錢
郵稅十八錢

文驗受驗者
必備の要書

東京神田
大同館藏版

◇三島章道氏著◇

最新刊

若き泉

〔著者自信ある感想・紀行・對話選集〕

四六判最上頗美本
紙數三百餘頁箱入
金壹圓八拾錢
送料十二錢

この書は私が折にふれて書きためた感想・紀行・對話等をあつめたものです。この書は隨分雜駁なものですがそれだけ多方面に色々の文が集められてゐるわけです。私の藝術や演劇論などを愛して下さる方には又この本も愛して下さることゝ思ひます。この書は淺い幼稚な思想からたどたどしくも生れでた貧しいものですが全體にわたつて若々しい氣持ちだけはみなぎつてゐると思ひます。そしてこの書を一貫して流れてゐる或る氣持を愛せる方は愛して下さるでせう。それで題も「若き泉」としたのです。　——（著者）——

目次一斑

紀行三題…佛國ランス紀行…大磯の或る夕邊…若き旅のすさび…感想と雜…眼の印象…印象のうちより…故國に歸りて…日本の女…若き啄と人眞似…溫情と言ふこと…冠を被つた罪誅…或手紙をよみて…生活の興味慰安をきかれて…エスペラント創案者の年忌に際して…劇藝術について…口を出るまゝの劇…藝術所感…幼き日の紀念に…幼き芽…雜感…ある對話…年若き友へ…二つと戀愛對話…老人と青年の對話…夢の逸話…

●◉◎大近松の時代浄瑠璃傑作選集出づ!!◎◉●

◉小林榮子女史校訂◉

最新刊

近松傑作時代浄瑠璃集成

（四六判最上製美本 千三百餘頁箱入）金五圓五拾錢 送料金廿四錢

近松逝いて既に二百餘年世に其の天才を讃嘆する者益々多きを加ふるは偶然にあらず就中其時代浄瑠璃は趣向の雄大描寫の鮮麗なる文章の雅建なる後世作者の到底企て及ばざる所なり。今其中に於て殊に傑作と稱すべきものを精選し用語には一々適當なる漢字宛故事には一々正確なる考證を加へ殊に世話浄瑠璃の校正に發したるに數倍する精力を傾けて本書を成せり。苟くも近松の眞面目を知らんとする人は必ず一本を手にせざるべからず

内容目次

出世景清
釈迦如來誕生會
百日曾我
最明寺百人上臈
雪女五枚羽子板
百合若大臣野守鏡
吉野都女楠
嫗山姥
孕常盤
國姓爺合戰
日本振袖始
曾我會稽山
傾城酒呑童子
本朝三國誌
平家女護島
雙生隅田川
傾城反魂香
室町千疊敷
信州川中島合戰
關八州繋馬

東京市神田表神保町
大同館藏版

大同館發行圖書目録

小林榮子女史校訂

四版

近松世話浄瑠璃集成

四六判最上製美本 全卷册七百八拾頁 正價金參圓五拾錢 送料十二錢

原作は妙趣盡きざる世界的名著
校訂者は隱れたる女流國文學者

本書は近松の靈筆に成たる世話浄瑠璃の全部廿四編を蒐めて現代人にも容易く共妙趣を味はしむべく、難解の俗語、佛典の成語には特に妥當なる漢字を充てたる校訂者の苦心によりて千古の才人の絢爛たる筆致は更に幾段の光彩を發揮して讀者の眼前に展開せらるべし。夫君一郎氏の序論亦的確にして近松をして地下に頷かしむるものあらん近松の作を多く讀たる人も讀め初めて近松の作に接せんとする人も讀め。

内容目次

長町女腹切
淀鯉出世瀧德
曾根崎心中
源五兵衛おまん薩摩歌
心中重井筒
心中二枚繪草紙
戀八卦柱暦
堀川波の鼓
與兵衛おかめ卯月の紅葉
あとおひ心中卯月の潤色
伊達染手綱
おむめ粂之助心中萬年草
お夏清十郎五十年忌哥念佛
三郎兵衛おきさ今宮心中
心中刄は氷の朔日
夕霧阿波の鳴渡
忠兵衛梅川冥土の飛脚
嘉平治おさか生玉心中
鑓の權三重帷子
山崎與次兵衛壽門松
博多小女郎浪枕
心中天網島
女殺油地獄
心中宵庚申
心中二ツ腹帶

□東京帝國大學
□社會學專攻　文學士　今井政吉氏新著□

寫眞圖入

好評三版　露西亜文明記

批評一班

昔から露西亜は世界の謎であつたが、歐洲大戰勃發以來世界は更に一層多くの興味を以て同國を見るに至り、革命勃發後は更に愈々世界的興味の焦點が同國に据ゑらるゝに至つた。そこで我が國は、隣國的關係を有する特殊の立場にあるだけ一層露西亜に對する興味を深く感ぜざるを得ない茲に於てか露西亜研究は實に我が國操觚界の一大潮流となり來つてゐる。朝に夕に露西亜に關する記事の雜誌上新聞紙上我等の眼に觸れぬ日は無いといふ有様である、が遺憾なことには未だ曾て纏りたる手頃の册子にして露西亜の國風全體を描けるものが無かつたのに、茲に今井文學士の本書を得て其の渇を癒やすを得たるは我等の心より欣幸とする所である。今井氏は數年間露西亜に滯在して其社會狀態を具さに研究して此程歸朝せられたる士にして、其の記述する所一々實地の觀察に基けるものであれば安んじて信頼することが出來る要するに、露西亜の國風社會狀態等全般に亙つて精細なる記述をせる點に本書の特色を見、露西亜に興味を有せる人士の逸すべからざる書であると共に各種學校の教授參考資料としても慥に有益なる著書である。

解體せる露國の前途如何？
これ何人も知らんと欲する所也。

四六判最上製
美本五百頁
金貳圓五拾錢
送料十二錢

文學士　高森良人氏新著■【文明史的觀察に成れる書】

新刊　滿鮮支那旅行の印象

滿鮮支那を歩いて來た著者の頭には幾多の問題のみが殘されて居る。古典を讀んで描いて居た支那も新聞雜誌を通じて想像して居た滿鮮も共にその眞相とは餘程な徑庭があつた。旅行!! それには聰明と發見とが必然的に產み出されて行くものである而して過去現實若くは時空間に渡りをつけるものは何と云つても旅行が最も捷徑であらう。—惟ふに政治產業乃至教育の方面も思想藝術的方面も支那位ジヤパナイズされた國はあるまい而もその何れのものに對して文明史的の見地から正當なる批判を下したものは差當り見出しかれる。平常この缺陷の一部分でもいゝから何とかして補ひ度いと思つて居る著者はこの際その企ての一端を表はさんが爲に感と紀行に助して抱懷せる所說を披瀝したものが本書であるこの意味に於て著者は淺薄なる思想をば飾るに閑文字を以てするが如き單なる月並の紀行とその軌を一にせざることを信じて疑はない。著者の渴仰せる新事物に對する知識慾と好奇心とを滿足せしめ著者の胸裡に鬱勃せる希望と抱負とを充足せしめたる大陸の自然と人生との印象記は苟も支那問題を口にする人々の一讀を煩ふも不當でないことを確信する。

日本及日本人本書を評して曰く
文學物として面白し
頗る趣味多き作である。

袖珍最上製美本
全壹册三百五十頁
正價金壹圓五拾錢
送料十二錢

大同館發行圖書目錄

◇小林一郎氏新著◇

―(絶大の好評を博して增刊出來)―

好評四版

芭蕉翁の一生

四六判最上製美本
本箱入全壹冊
六百八拾頁
金貳圓八拾錢
送料十八錢

其の生前に於ても死後に於ても芭蕉翁の如くに多くの崇拜者をもつて居る人は今古の詩人文士中に曾て例の無いことである此の如き人の一生は何人も之を研究して見て大なる教訓を得へきものである著者は俳諧の專門家では無いが翁の作を愛誦すること既に三十年翁を識る上に於ても一種の自信をもつて居る隨て著者は此著を現代各階級の人に薦めて其の批判を得ることを熱望して居るのである。

著者が多年敬仰愛慕の熱情遂に本書を成す

目次一班

吾が師芭蕉翁　寂しき中の力　駒込の別天地　忙しき時代　趣味の生活　翁の時代
少時の芭蕉翁　翁の遁世　寛文前後の俳壇　翁の東下　芭蕉庵　野ざらし紀行
正風の勃興　辛崎の松　古池の句　鹿島の月見　笈の小文　芳野行脚
更科の日　奥羽行脚　奥のほそ道　三代榮華の跡　幻住庵
最後の行脚　臨終の前後　翁と其の門弟　天才と努力　侘びたる生活

◇小林一郎氏新著◇

―(再版亦々賣切三版出來)―

好評三版

奥の細道評釋

四六判最上製美本
金壹冊壹百餘頁
金壹圓參拾錢
送料十二錢

旅を以て生命とせる芭蕉翁が奥羽から北陸に亘る半歳に餘れる旅日記なり之を讀む者は宛ら此の俳聖に伴ひて山水の間に放浪するの感無き能はず芭蕉の集中無二の名篇たるのみならず此の種の文としては東西古今一も比肩すべき者無し著者が芭蕉に對する渇仰の意は自ら此の註釋を成せり。未た芭蕉を知らざる者も既に知れる者も共に必ず一讀せざるべからず。

◇小林榮子女史考案◇

―(極彩色十數度刷・優美文字石版刷)―

特別最上製
壹組箱入
正價
金壹圓八十錢
送料拾八錢

趣味教育

俳句いろはかるた

自分の子を出來る丈立派に育て上たいと望まぬ親はありますまい。立派に育て上るのには高尚な趣味を養はせるのが最も大切な條件です。日本は世界に類の少い趣味の國と言はれて居ます俳句は此の國民性を最もよく現はしたものです。私は古來の名句の中から殊に小さい人に適する樣なのを撰み自分の子供に取せて居ました。今度之に繪を添て皆さんに提供するのは皆さんが揃って立派な人に成て下さるやうと願ふからですそれが皆さん自身の爲でもあり又御國の爲でもあると思ひます。

東京市神田區
表神保町七
■大同館發行■
振替貯金口座
東京八七貳番

大同館發行圖書目錄

ドクトル・フイロソフイエ 上田恭輔先生著（類書は皆本書から取れるもの也）

好評三版

生殖器崇拜教の話

本書は　當今大人氣の性慾問題を捉へて流行の風潮に乘ぜんとするキワ物では御座らぬ本書は紀州の南方熊楠先生と共に聞れたる二人學者の世評ある大連の上田先生の舊著を改版したものである本書には既に英譯あり佛譯あり生殖器崇拜問題を學術的組織的に研究したる本邦最初の試みである、敢て讀者の一讀をすゝむ。

袖珍洋裝美本　全壹册百六拾餘頁

正價金六拾錢　送料二錢

東京市聯合青年團講師　浦谷甫水氏著

好評再版

徹底せる心の生活

國民として亦個人として思想の動搖●精神の不安實に今日ほど甚しきはなし。此時に際會せる青年少者の心事洵に同情憐心に堪へざるなり。本書は著者が體驗自得せる自己の信念を極めて平易に吐露し以て彼等の精神に一道の光明を寄與し其の生活を意味深からしめんとせるもの。一言一句皆其の肺腑より出で痛切懇篤にして生氣潑剌たるは勿論徹底的精神的に人生を觀超然として悠々自適而もなほ能く眞面目に奮闘的氣分を高潮せる一大修養書也。

四六判最上製美本　全壹册三百餘頁

金壹圓八拾錢　送料十二錢

504
75

終